

大雨などから身を守るために 防災気象情報 を活用しましょう

防災気象情報とは、気象庁が河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮などの災害リスクを住民や自治体に伝えるために発表する、警報や注意報、情報などの総称です。この情報は、自治体が避難情報を発令する際の判断根拠にもなります。市民の皆さんは、情報が発表された場合、災害のリスクが高いことを認識し、速やかな避難行動につなげてください。

5月29日から防災気象情報が新しくなります

気象庁が発表する特別警報・警報・注意報の名称が変更されます。例えば、「大雨警報」が「レベル3大雨警報」のように、警戒レベルと警報・注意報の情報名を組み合わせて発表されます。この新しい表記は、発生する可能性のある災害の種類や危険度が一目で分かるように工夫されており、市民の皆さんが素早く状況を判断し、避難行動を取る際の参考となります。



新たな防災気象情報名および時間経過のイメージ

災害発生までの時間	新たな防災気象情報名	避難行動や心構えなど
数日～1日前	レベル1 早期注意情報	▽災害への心構えを一段高める。 ▽所属する組織などの連絡体制を確認する。
半日～数時間前	レベル2 注意報	▽ハザードマップなどで災害リスクを再確認する。 ▽市から発表される避難情報の把握手段を再確認する。
数時間～3時間前	レベル3 警報	▽避難に時間がかかる 高齢者などは、危険な場所から避難する。 ▽高齢者などの人以外も必要に応じて避難の準備や自主避難する。
2時間～0時間前	レベル4 危険警報	危険な場所から全員避難する。 ※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了させましょう。
災害発生中	レベル5 特別警報	自宅の中で、今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動する。 ※すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。



新たな防災気象情報のポイント

発表される警報・注意報の名称にレベルが付記され、避難行動の目安が明確になりました。

【例1】旧＝大雨警報

新＝レベル3 大雨警報

【例2】旧＝土砂災害警戒情報

新＝レベル4 土砂災害危険警報

線状降水帯の発生など極端な現象は、新たに「気象防災速報」として発表します。

【例】

旧＝記録的短時間大雨情報

新＝気象防災速報（記録的短時間大雨）

※（ ）に気象情報名を記載。

裏表紙で新しい警報・注意報の一覧を載せているよ！



防災気象情報を確認しましょう

気象庁は、気象警報や注意報は、災害に結びつくような現象が発生する前に発表することとしています。警報や注意報はテレビやラジオ、県防災アプリ、防災メール、防災無線、市公式 SNS などを通じて伝えられます。事前に情報の取得方法を確認したり、アプリを取得・登録したりして、災害に備えましょう。

県防災アプリ



防災メール



市公式 SNS



キキクル



災害から身を守りましょう

災害が想定されている区域などでは、避難指示が発令されていなくても既に災害が発生している場合があります。自治体からの避難指示の発令に留意するとともに、危険な場所には近づかず、避難の判断をしてください。

河川氾濫

川の近くが危険！

「氾濫」が発生すると、建物が水に浸かったり流されたりします。



大雨

低い場所が危険！

線路の下の道路などの低い場所は、大雨が降ると水に浸かります。



土砂災害

山や崖の近くが危険！

山や斜面が崩れて、石や土などが流れてきます。



高潮

海の近くが危険！

海面が高くなる「高潮」が発生すると、波が堤防を越えてきます。



避難の仕方

- 災害が起きる前に、安全なところへ逃げましょう。
- 自宅から逃げるのが難しい場合は、状況に応じて自宅の中で比較的安全な場所に移動しましょう。
- ▽河川氾濫・大雨・高潮＝できるだけ高い場所へ
- ▽土砂災害＝山や崖から離れた部屋へ

避難のタイミングはレベル3～レベル4だよ！



防災気象情報を活用して計画的に避難しましょう

新しくなった防災気象情報は災害時の情報収集の一つの手段です。普段から情報収集を行い、災害に備えて避難場所や避難経路、避難のタイミングなどを決めておくことが重要です。自分と大切な人を守るために準備を始め、多くの人々が安全に迅速に避難できる社会を一緒に作りましょう！

●問い合わせ先 地域防災対策室 (☎ 37-2121)